

# 令和5年度 星置学園いなほガーデン 学校評価

## 1. 園の理念・基本計画を理解し、教育・保育に活用していたか

園の教育目標は、これからの予測が難しい時代において、自ら工夫して対応し力強く生きていける人間の育成を目指していると思います。そのために ①どんな環境下でもそれに能動的に働きかけることができる心と体の育成、②集団生活を通して多様な考えを理解して、他者を認めることができること、③自分の目標をもち、継続して挑戦していける力の獲得、④身の安全のために、多くの体験から危険を予知できる力の育成、が掲げられていると思います。

実現に向かって、この理念から作成した保育計画を基に先生方は保育に熱心に取り組んでいました。

そのことは、子どもが毎日楽しく登園していたことから裏付けられると共に、保護者アンケートでは「子どもは幼稚園に行くのを楽しみにしている」「自ら遊びをつくり出す楽しさを味わい、幼稚園生活を楽んでいる」「子どもは遊びの楽しさや達成感を味わい、自信をもって行動できるようになってきた」の項目では、80～90%近い方が「十分達成されている」と評価されていました。

## 2. 園の運営・管理(分掌内容)を理解して、自分の分担の仕事を行っていたか

分掌において、教師は計画に基づいて分担された業務を遂行していたことが、教師の自己評価から明らかです。その中には、各自が分担の仕事を工夫し協力して頑張っていた様子が多く記述されていました。保育実践は勿論のこと、行事や園外活動、園の環境維持のために工夫していたこと、チームワークを第一に業務にあたっていたことが記述されていました。

## 3. 保育計画に基づいて、環境構成や子どもの見取りを工夫して保育実践をしていたか

遊び中心の保育において、子どもが主体的に活動できるようにするためには、子どもの把握に基づいて環境構成の工夫が大切になります。教師は子どもの気持ちをより把握することにつとめ、子どもの次の活動を予測しながら環境を工夫して援助していました。

また、子どもへの援助の言葉がけが工夫されており、子ども自らが決定し行動しようとする子どもの主体性にゆだねる場面が多く見受けられました。

これは、保護者アンケートでの保育内容に関する多くの項目で、「十分達成」と「ほぼ達成」の評価が98%以上であったことから保護者が満足できる保育が行われていたと判断されます。

教師の自己反省では、学年は勿論、教職員との協力体制を重視して取り組んだことが数多く記述されていました。一人だけの力でなく教師チームの力によって保育が実践されていたことが裏付けられていたと考えます。

## 4. 子どもの安全のために環境の快適さ、清潔さや安全性に配慮して実践していたか。

園をいつ訪問しても教室、ホール、水飲み場、トイレ、などの施設は清潔に保たれておりました。新しい施設ではありませんが、常に改善を図りながら安全性、快適性、清潔性の向上に取り組んでいたと考えます。

教師は常に子どもの安全に注意を払いながら保育実践に当たっておりました。今後も子どもの活動を最大限

に確保しながら大きなケガがないように事故防止に十分配慮をお願いしたいと思います。

## 5. 保護者対応(相談、連絡、援助)の向上を目指して努力していたか。

教師は保護者に子どもの様子を伝えるコミュニケーションを中心に、保護者との連携に励んでいたと考えられます。保護者アンケートの記述に「担任の先生、補助の先生はもちろん他のクラス・フリーの先生も子どもの様子、成長を見て下さっていることがとてもうれしいです」「いつも1人ひとりを見て下さってありがとうございます」「いろいろな先生が子どもの様子を伝えてくれて、園全体で見てくださることが嬉しい」との声が寄せられていました。

## 6. 研修に対して積極的に参加し、教育・保育を向上させようと努力していたか。

公的な研修(幼稚園団体の研修も含む)をはじめ、先生方は熱心に参加し実践力を高める努力をされていたと考えます。私がアドバイザーとして参加させていただいている園内研修においても、毎回熱心な討議が行われ、講師の先生に質問をしたりして向上を目指しておりました。また、保育実践を映像で記録し、学年や全体で分析したりして実践力を高めておりました。個人でも図書館に行ったり、webで調べたりと向上に励んでいる記述がありました。引き続き自分の興味・関心に基づいた自己研鑽にも励んでいただきたいと考えます。これは子どもの気持ち・行動を理解する基盤の一つなると考えます。

## 7. 全体を通して

保護者アンケートから保育全般に高い評価をいただいていることが分かります。これは園長はじめ教職員がコミュニケーションをとりながら協力して日々努力している結果だと思えます。

保育(教育)において、これで十分というラインの設定はできないと思えますので、今後もより良い保育を目指していただきたいと思えます。

保護者の要望がいくつかアンケートに記述されていましたので、園の保育方針をより伝わる形でお知らせする方法を模索していただければと思います。また、子育て支援に関しても働いている保護者が多いと思えますので、「いつでも相談できる体制」、「子育て内容の講演会」、参観日等の懇談で意見交流するというような保護者同士で自分の経験を交流しながらお互いが学ぶ場の設定、などバランスのよい支援を企画してほしいと思えます。

クラスや廊下、ホールの展示がいつみても、子どもたちが活動を振り返られるように工夫されておりました。子どもたちはそれをみて自分の頑張りに自信をもち、新たな活動の意欲を引き出していたことと思えます。

(酒井義信)